ウメモト　インフォメーション

2024 年　8 月 19 日　　担当　虻川

原油、反落　中国需要減への懸念で　金は続伸

19 日朝方の国内商品先物市場で、原油は反落して取引を始めた。中心限月の 2025 年 1 月物は 1 キロリットル 6 万 9150 円と前週末の清算値に比べ 1810 円安い水準で寄り付いた。原油需要の多い中国の景気懸念から、原油先物に売りが出た。

中国国家統計局が 15 日発表した 7 月の小売売上高は前年比の伸びが前月から加速した半面、7 月の鉱工業生産は市場予想を下回った。中国景気が減速し、原油の需要が落ち込むことへの警戒感が根強く、原油先物に売りが出た。

金は続伸した。中心限月の 25 年 6 月物は 1 グラム 1 万 1954 円と前週末の清算値比 164 円高い水準で取引を始めた。一時、1 万 1962 円と中心限月として 7 月 31 日以来の高値をつけた。前週末のニューヨーク市場では、ニューヨーク商品取引所（COMEX）で取引の中心である 12 月物が過去最高値を更新する場面があり、国内の金先物にも買いが波及した。米連邦準備理事会（FRB）による利下げ観測や中東情勢を巡る懸念などを背景に、実物資産を裏付けとする金先物には買いが入りやすい。

白金は反落した。中心限月の 25 年 6 月物は 1 グラム 4533 円と前週末の清算値を 30 円下回る水準で寄り付いた。19 日の東京市場で日経平均株価が軟調に推移しており、自動車需要が多く景気動向に左右されやすい白金の先物相場の重荷となった。

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2024 年　8 月 19 日　　担当　虻川

外為 10 時　円相場、147 円台後半で小動き

19 日午前の東京外国為替市場で、円相場は 1 ドル=147 円台後半で朝方から小幅な動きとなっている。10 時時点は 147 円 81～82 銭と前週末 17 時時点と比べて 1 円 22 銭の円高・ドル安だった。16 日の米長期金利の低下を手掛かりとした円買い・ドル売りが引き続き優勢になっている。

10 時前の中値決済に向けては「ドル買い需要は強くない」（国内銀行の為替担当者）との声があった。お盆休みが終わった週明けの取引量はまだ大きく増えていないという。

円は対ユーロでも上昇している。10 時時点は 1 ユーロ=163 円 05～07 銭と同 67 銭の円高・ユーロ安だった。ユーロは対ドルでは上昇しており、10 時時点は 1 ユーロ=1.1030 ドル近辺と同 0.0045 ドルのユーロ高・ドル安だった。

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2024 年　8 月 19 日　　担当　虻川

ココアバター代用脂、世界で伸長　不二製油はヒマワリ油

カカオ豆の高騰を受け、チョコレートになめらかさを加えるカカオ豆由来の油脂「ココアバター」を別の油脂で代用する動きが世界で広がっている。ココアバター代用脂（CBE=Cocoa Butter Equivalent）と呼ばれ、主成分はパーム油脂。CBE の世界市場規模は今後 10 年で 7 割増えるとの調査もある。不二製油グループ本社など世界の油脂企業が新製品を出し、広がる市場を狙う。

不二製油 G 傘下の米チョコレート製造大手、ブラマー・チョコレート・カンパニー（イリノイ州）は CBE を使った業務用チョコ「Elevate（エレベート）」を発売した。主に米国内の食品メーカーやショコラティエに供給する。チョコ原料の値上がりが続くなかで「価格を含めた価値を訴求する」（不二製油 G）という。

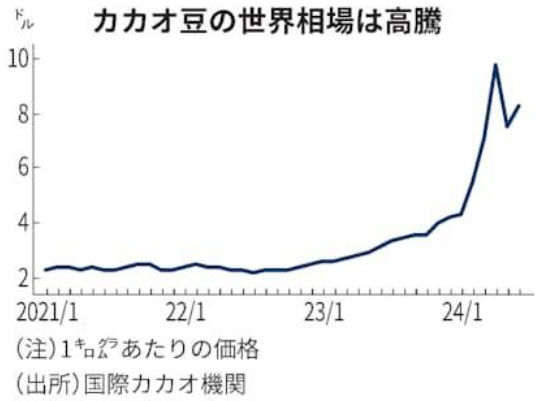
7 月中旬に米シカゴ市で開かれた北米最大級の食品原料と食品技術の展示会「IFT」で展示したところ、「予想を大きく超える反響があった」（同）。

原料の大半をカカオ豆由来でつくるチョコは「ピュアチョコレート」と呼ばれ、カカオ以外の別の植物性油脂を配合したチョコは「コンパウンドチョコレート」と呼ばれる。日本国内などでは既にコンパウンドチョコが多く流通しているが、主に欧米ではピュアチョコが価値あるものとされる文化があった。

ブラマー社の研究開発部門はこのほど、パーム油脂とヒマワリ油を配合した CBE チョコを独自開発した。同社によると、この CBE を使ったコンパウンドチョコは「ピュアチョコと遜色ない味と口溶けを実現し

た」という。マーク・オオキタ COO（最高執行責任者）は「不二製油グループの先進的な原料技術を活用した、ゲームチェンジャー（状況を一変させるもの）となる製品だ」と胸を張る。

ブラマーが CBE にこだわる理由は、カカオ豆の高騰だ。コートジボワールに本部を置く国際ココア機関（ICCO）が公表する世界相場によると、6 月の平均価格は 1 キログラムあたり 8.27 ドル（約 1200 円）と、2 年前から 3.6 倍に上がった。チョコメーカーの収益を圧迫しているほか、街の洋菓子店などにも負担は大きい。値上げに歯止めをかける秘策として CBE を導入する。



世界でも CBE の開発合戦が進む。インドネシア発祥のパーム油脂メーカー、ムシム・マス・ホールディングス（シンガポール）は 2023 年 10 月、業務用新製品「CBE Choco NE50」の世界展開を始めた。インドの油脂メーカー、マノラマ・インダストリーズ（チャッティースガル州）も CBE 配合チョコに力を入れる。

インドの調査会社、ストレイツ・リサーチ（マハーラーシュトラ州）によると、CBE の世界市場規模は 32 年に約 3300 億円と、23 年（約 1900 億円）比で 1.7 倍に膨らむ。カカオ高騰に伴う CBE 需要の拡大は当面続きそうだ。

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2024 年　8 月 19 日　　担当　虻川

石油関連株に投資マネー　原油底入れで業績期待広がる

16 日の東京株式市場で石油関連株への資金流入が目立った。出光興産は一時前日比 5%高と年初来高値に迫ったほか、ENEOS ホールディングスや INPEX も相次ぎ上昇。米国景気への懸念後退などに伴う原油価格の底入れで業績拡大期待が高まった。市場全体で見て出遅れ感があったことも買いを後押しした。

この日の日経平均株価は 4%高と大幅続伸したが、さらに上昇したのが業種別日経平均株価の「石油」だ。前日比 5%高の 1718 円 83 銭とおよそ 1 カ月半ぶりの高値をつけた。「鉱業」も 4%超上昇。個別銘柄にも同様に買いが目立った。

石油元売り大手の ENEOS とコスモエネルギーホールディングスは一時 6%高となったほか、INPEX も同 5%高となった。買いの手掛かりは原油価格の上昇だ。

国際指標の WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物の期近物は 15 日時点で 1 バレル 78 ドル前後と、8 月上旬の直近安値から 1 割ほど高い水準まで回復した。中東情勢の緊迫化を受けた供給減少への懸念があるほか、原油需要に対する過度な警戒が和らいでいる。15

日発表の 7 月の米小売売上高は市場予想を上回り、米景気のソフトランディング（軟着陸）期待も高まった。

野村証券の山崎慎一リサーチアナリストは「原油価格の上昇と円安進行で、備蓄する石油の在庫評価益が膨らみ業績が拡大するとの期待が強まった」と指摘する。

前週に発表した石油元売り大手 3 社の 2024 年 4～6 月期決算が良好だったことも買いを下支えしている。在庫評価損益の改善にくわえ、ガソリンや軽油など石油製品の利幅（マージン）も好調に推移した。

石油関連株の投資妙味が増していたことも一因だ。日経平均が半導体関連株を中心に歴史的な高値圏に上昇するなか、相対的に買い戻しが入りやすい水準にあった。

日経新聞

ウメモト　インフォメーション

2024 年　8 月 19 日　　担当　蛇川

米国の石油サービス大手、ロシアで事業拡大　NGO が批判

米国の石油サービス大手 SLB（旧シュルンベルジェ）がロシア事業を拡大していることが明らかになった。ロシアの石油販売収入はウクライナ紛争の戦費調達につながるとして批判が高まりそうだ。

国際非政府組織（NGO）グローバル・ウィットネスが 16 日公表した。2023 年 12 月に SLB はロシアの石油・天然ガスの政府系研究機関と 1340 万ルーブル（約 2200 万円）の契約を交わしたという。1 年間にわたり石油・ガス埋蔵量の調査を支援する。

SLB グループは 22 年のロシアのウクライナ侵略以降も石油開発などに関する特許をロシアで 43 件取得した。

英紙フィナンシャル・タイムズによると、SLB は 23 年 12 月以降、運転手や地質、化学の専門家ら 1000 人以上の求人広告を出したほか、同社のロシア子会社が 24 年 7 月に 2 件の商標登録をしている。

SLB は 23 年 7 月、ロシアへの製品・技術の輸出を停止すると表明した。もっとも、23 年 8～12 月には電線や化学品など 1750 万ドル分の設備をロシアに運び込んでいた。このうち 220 万ドル分は SLB グループが製造したという。

1300 万ドル分の輸入品は中国、300 万ドル分はインドからだった。両国はウクライナ紛争で中立の立場を保つ。SLB はロシアの石油会社に掘削用設備などを納入しているとみられる。

ライバルの米ベーカー・ヒューズと米ハリバートンはすでにロシア事業を現地企業に売却している。ウクライナ政府などは SLB のロシア事業継続がウクライナ侵略の戦費調達に貢献していると批判している。

もっとも、欧米政府は石油サービスを巡り包括的な経済制裁に二の足を踏んでいる。ロシアの石油生産・輸出が滞れば原油相場が上昇する懸念があるためだ。米国務省は 5 月、SLB が対ロシア制裁に違反していないとの見解を示した。

日経新聞